



堀小だより

6月号
No.614

～笑顔と緑あふれる堀之内～

発行責任者：校長 森 孝

いのちを考える

校長 森 孝

毎日、学校内に子供たちの元気な声、明るい笑い声が響いています。多くの子にとって、「笑顔と緑あふれる堀之内」の「笑顔あふれる」は実践できつつあるようです。

さて、杉並区では5月・6月を「いのちの教育月間」としています。堀之内小でも、特別の教科 道徳の時間や他の様々な教育活動を通して、かけがえのない命の大切さについて子供たちと一緒に考える機会を設けています。

「命ってどこにあるの？」以前、子供たちにそう問いかけたときに、多くの子は心臓や頭を指していました。ある面、予想された反応でした。私たちは「命はひとつしかない」「命は大切なもの」ということなど、折に触れ「命」についていろいろなことを繰り返し話してきています。でも、もっと素朴だけど大事な疑問「命って何？」への答えも、「命ってどこにあるの？」への答えも、実は子供たちに話して来なかったかもしれません。

とはいえ、この疑問に子供たちが納得するようにストレートに答えることはとても難しいです。だから、いろいろな機会に、「命」について話をしたり、話を聞いたり、話し合ったりして、いろいろな視点から「命とは」を考えることが大切なのだと思っています。

聖路加病院の医師だった日野原重明さんは、著書「いのちのおはなし」という子供向けの絵本の中で「いのちはきみたちがもっている時間だといえます」「誰にも平等にある命を無駄にしないということは、時間を無駄にしないことです。」と書いています。命をどう使うのか、これも「命って何」を考える視点になるかもしれません。

本以外にも、飼っている生き物のこと、食育の一環として「いただきます」の意味を考えることなど、実は子供たちの周りには、「命」を考えるきっかけとなるものがたくさんあります。ぜひ、ご家庭でも機会があれば、お子さんと「命」について考えてみてください。

学校でも、先日3年生が行った「ヤゴ救出」の学習や蚕の飼育など、直接体験を通じた学びも大切な機会ととらえて、命について子供たちと一緒に考えていきたいと思っています。

【屋上再生プロジェクト途中経過】 ～田植えをしました～

5年生がリフォームした屋上の田んぼのその後です。
5月中旬に田土を入れ、水を張り、田植えをしました。
水を張ってみると、花壇が傾斜していることが分かったり、どこかから水が漏れていることが分かったりと、新たな課題も見えてきました。
既に防虫対策まで考えている子もいるようで、今後の学びの広がり、深まりが楽しみです。
次はビオトープのリフォーム、そしていよいよ「池」にも着手です。



4年生 遠足に行って



◇ぼくは、遠足で善福寺川緑地へ行きました。ぼくの班の3年生とは、この遠足で初めて関わりました。いっしょに先生のクイズを回って、答えを話し合ったり、おにごっこや進化じゃんけんで遊んだりするうちに仲良くなることができました。

◇3年生と班の人で遊べて楽しかったです。でも3年生をまとめるのは、大変でした。自分たちもきょ年は、今の5年生にめいわくをかけていたかもしれません。今年はしっかり3年生をまとめるのをがんばりました。成長できたと思います。

◇3・4年で遠足に行って、わたしは「不安」と「楽しい」が心の中にありました。わたしは班長としての役割を果たしているのが不安でした。けれど、4年生のチームワーク、3年生の協力が良かったから安心しました。

◇副班長は、班を後ろから見守る仕事で、後ろをキープするのがむずかしくて、すぐに前に行ってしまったからくやしかったです。班で遊ぶときに全員で楽しめて、めあても達成できたので、よかったです。

◇3年生といっしょに遠足に行く前に、何をしてあげるかをみんなでいっぱい出し合いました。話し合ったことをいしきして、遠足にいったら、3年生が「楽しい。」と言ってくれました。自分も楽しかったです。

◇私は年下の人を見てあげられるか、不安でした。この前までは自分たちがめんどうをみられることが多かったからです。けれど、みんながきょう力してくれて、楽しい遠足になったので、とてもよいチーム活動になったと思います。

◇わたしが一番うれしかったことは、ジェスチャーゲームをしたときに3年生が笑ってくれたことです。自分たちでえらんだものでよろこんでくれるとやってよかった、と思えるからです。3年生にとって、リーダーになれていたらいいと思います。

◇遠足で印象に残っていることは、班長になってよかったなと思ったことです。班長はみんなをまとめたりする仕事だからこそ学校についた時の達成感が去年より倍になった気がしました。とても楽しくてじゅう実した遠足になってよかったです。

◇3・4年生全員が「楽しかった」と思えるようにやさしくせしました。3年生が4年生になった時、今の3年生が「4年生はやさしかったな」「おもしろかったな」と思ってくれて、見本になれたらいいなと思いました。

◇自分が3年生だったときは、4年生はおせわを楽そうにこなしていたので、かんたんなのかと思っていましたが、ゲームを考えたりして、とても大変でした、3年生のおせわは、思っていたよりもむずかしかったです。

◇3年生とクイズをしました。わからないことがあったら親切にヒントを教えてあげました。4年生のみんなで協力して声をかけあったので、3年生のみんなははぐれませんでした。ぼくは遠足から帰ってきたら気持ちが良くなりました。

◇3年生がどこかへ行かない、けがをしないようにがんばりました。班長として、一番気を付けなければいけないことが分かりました。それは、班をいい方にひっぱることです。また、いろんな遊びをしたいです。

◇どうやったらみんなで楽しく遊べるかなと思いました。少しルールを変えて遊んだら3年生も4年生もわたしも楽しめたので、うれしかったです。オリエンテーリングの時に協力してクイズに答えるのが楽しかったです。思い出になる遠足になりました。

◇はじめて班長をしたので、少しきんちょうしていたけれど、3年生といっしょにオリエンテーリングをしたり、班で遊んでいたりしたら、きんちょうしていたのがなくなって楽しく遊べました。またいっしょに遊びたいなと思いました。

◇3年生と行ったことできずながうまれたと思います。きょ年、3年生だったわたしたちもとても成長したと思います。楽しかったことは、班遊びです。この遠足は、わたしの中で一番楽しかった遠足でした。他にも楽しいことがいっぱいあると思います。



2年生 学校案内



◇1年生といっしょにシールをあつめていきました。シールをあつめているときに、1年生がはぐれてまいごにならないように気をつけました。1年生がぼくの言うことをちゃんと聞いてくれてえらいなと思いました。とても楽しかったです。

◇人がいっぱいいるきょうしつでは、「いっぱい人がいるときはまつだよ。」とつたえると、「おしえてくれてありがとう。」といってもらえて、こころがぼかぼかしてうれしかったです。「もっとおしえてあげよう。」と思いました。

◇6年生が、りかしつで火の実験をしていたので、そのまわりをあるきました。1年生に「しずかにしてね。」という、しずかにあるいてくれました。なにがどこにあるかをおぼえてくれたかなと思いました。

◇わたしは、ゆっくりあるいて、ゆっくりおしえました。音がくしつやしょうにんずうさんすうしつなどでシールをはるのをまわっていると、シールをはりおわった1年生がにこにこしていました。うれしいなと思いました。

◇りかしつに入るまえに「なにもさわっちゃだめだよ。」と言ったら、1年生はまもってくれました。じんたいもけいに、いちばんおどろいていました。さいごに「もういっかい、たんけんしたい。」と、にこにこしていたので、よかったですと思いました。

◇たんけんしているとちゅうに、だれかがまいごになっていないか、シールをはっていない子がいないか、ずっと見ていました。1年生に「2年生っているんなへやをしっているね。」と言われてうれしかったです。



算数少人数指導について

算数少人数担当

算数科少人数学習の教室は2階の西門に一番近い場所にあります。季節によって異なる美しい木々の姿を窓から見るができます。本校のシンボルツリーであるくすのきの堂々とした姿はもちろん、遊具近辺の紅葉は特に素晴らしく、毎年見とれてしまうほどです。

さて、今年度の3～6年の算数科少人数指導の教室では従来の教室とは机を異なる配置に置き、4～5人ずつの5・6グループで子どもたちが机を向かい合わせて座り、学習する形態をとっています。また、意図的に多様な定着度の児童を混合してグループ編成をしています。これは、子どもたちが個々に前を向いて先生の説明と発問を受け、黒板の内容をひたすらノートに写す「だけ」の授業から脱し、「**学習集団である子どもたちが、対話を通し主体的に学習課題を解決し、児童が個別に感じている課題ができるようにする**」ための取り組みです。自分だけでは解決が困難な学習課題も他の児童との学び合いの中で自分に必要なヒントをつかみ、理解度を高めることをねらいとしています。具体的な学習活動においては、ここ数年コロナ禍の中で制限がありますが、このような学習スタイルや考え方は今日、グローバル・スタンダードとなっています。

この学習スタイルで大切なことは個々の子どもが学習課題に対し自分なりの「問い」をもつことです。（学習方法の制限が無い状況下では）近くに座った子どもと学習課題について相談・検討します。自分の席を離れて話すこともあります。そこでは、自分の「問い」に対し自分だけでは解決できない・補わなければならない内容を相手の子どもの個別に得ることができるのです。また、内容を伝える側の子どもにおいても言語化して整理することで一層知識の定着が図られます。課題→結果のように「点」を見て学習の成果を求める（デジタル）のではなく、課題→過程→結果のように「線（一連の学習の流れ）」も大切に（アナログ）することで子どもは成長するのです。

また、教育学の研究でも「**個人で学ぶよりも集団で学ぶ**」、「**競争的關係よりも協力的關係**」が学習の定着度が異なる**全ての子どもにおいて学習の達成度が高い**とされています。授業の様子でも応用問題に取り組んだり、複数人で具体的なものを使って測る・調べる・動かすなどの活動を行ったりする際に、特にこの効果が表れています。

改めてご家庭でもお子さんに学習以外でも様々な生活上の出来事について「問い」をもたせ、**保護者がその「問い」を寄り添って聞き、示唆を与える**（毎日の生活も忙しく、なかなか難しいことではありますが）ことを大切にさせていただくようお願いしたいと考えております。

6月の行事予定



日	曜	学校行事<PTA・地域行事>	開放	日	曜	学校行事<PTA・地域行事>	開放
1	水	富士学園移動教室(5) 引き渡し訓練(2・6年)	○	17	金	授業参観 体力向上週間	
2	木	4時間授業 SC		18	土		
3	金			19	日		
4	土		◎	20	月	避難訓練	
5	日			21	火	音楽鑑賞教室(6)PM	
6	月	5時間授業 移動プラネタリウム(4)		22	水	引き渡し訓練(3・4年)	○
7	火	体力調査(全)		23	木	4時間授業、歯科検診(4~6)、SC	
8	水	4時間授業	○	24	金		
9	木	SC		25	土		
10	金	内科検診(1)		26	日		◎
11	土	土曜授業、学校運営協議会 セーフティ教室(1~3)		27	月	読書旬間	
12	日		◎	28	火		
13	月	水泳指導始 体力向上週間		29	水	クラブ	△
14	火			30	木	SC	▼7/8まで
15	水	授業参観、委員会					
16	木	授業参観 SC					

SC スクールカウンセラー来校日 ※校庭開放 ◎13:00~17:00 ○14:30~17:00 △15:30~17:00

※給食費の引き落とし 6月10日(金)

6月の生活目標

「健康に気をつけよう・遊びかたを工夫しよう」

5月は、あいさつや言葉遣いについて重点的に声をかけてきました。朝の登校時や廊下ですれ違う時など様々な場面で自分から気持ちの良いあいさつをする子供たちもいました。あいさつを通じて豊かな人間関係が築けるよう指導していきます。

6月は、天気が不安定な日が続きます。校庭で思い切り体を動かさせない分、教室で落ち着いて過ごすことも増えてきます。室内での遊び方を工夫して過ごせるよう声をかけていきます。また、感染予防のため手洗い・消毒の徹底をしています。手を洗った後は清潔なハンカチでふくように声をかけています。各ご家庭では、お子さんにハンカチ・ティッシュを自分で準備させ、必ず身に付ける習慣づけをしていただきたいと思います。引き続き、ご理解、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

(生活指導部)